



ワークショップで試作された教材を用いた授業を参観
(蘭州市郊外、三角城小学校 12月19日)



ワークショップで試作された教材のフィールドテストを討論、考察する集会に出席
(於：蘭州市 1993年12月14日)



ワークショップ風景



開発教材(環境理科)



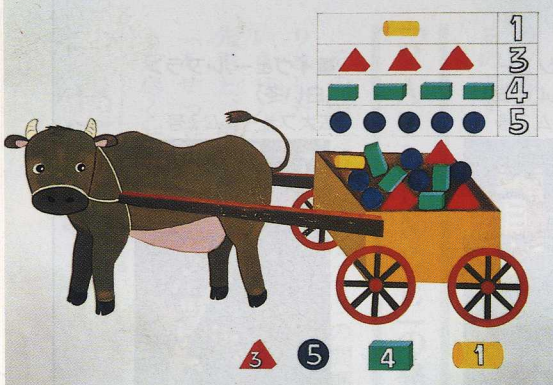
フィールドテストの授業における子供の学習記録を授業を行った教師と共に検討(蘭州市郊外、三角城小学校 12月19日)

ユネスコ・アジア・ 識字教育事業に

太平洋地域 について

学校教育学部・学校教育講座

土井利樹



開発教材(算数)



開発教材(算数)

事業は三年を一期とし、一年目に試作教材作成のための共同ワークショップの開催、二年目には試作教材による現地テストと教材確定のための共同ワークショップの開催、三年目には現地での普及指導活動が中心となる。現在、事業はやや遅れ気味ながら第一期の二年目に入っている。

事業のうつき

一九九一年六月には、学校教育学部を中心に各国の専門家を招いての十日間の教材開発共同ワークショップを開いたが、違いを認めあながらも共通に関心を持てる教材と一口にいっても、やはり各国にそれぞれ事情があり、実際の作業はかなり困難なものがある。

特に、掛け図にするためには人物の表情や服装、背景の草木一本一本が異なり、社会習慣が異なる中で、参加各国の共通の教材となる英語版掛け図は、

ある意味では国籍不明のものとなる。それをベースに各国版で背景や顔つき、衣装などを修正していく作業は大変な労力であった。それでも美術専攻の学生や留学生の協力でなんとか形になった次第である。

(どい・しき)

この事業には二つの大きなねらいがある。ひとつは就学率や学校への定着率に課題を持つ国の専門家と広島大学の専門家が協力して、アジア地域の僻地に暮らす子供たちが興味をもって、また理解を深めながら学習に取り組めるような教材を開発・作成し、普及させていくことである。

もうひとつは、教材の開発・作成、普及の過程を通して、参加各国の教材開発の力量を豊かにしていくことに、

事業のねらい

広島大学が協力していくことである。



バリ島の小学校



バリ島中部の小学校での授業風景

事業の概要

現在、この事業にはバングラデシュ、中国、インド、インドネシア、ネパール、フィリピン、タイの七か国が参加している。

事業は、一九九一年十月に広島大学で各国とユネスコ代表及び広島大学の関係者が参加して企画会議開催、続いて広島大学関係者の現地の実情視察から始まった。

これらに基づいて、一九九二年からは各国の文化や国情の違いを認めあいながらも、共同の教材作りが比較的容易であるということで、小学校低学年向けの算数、保健、環境(社会と理科)を中心に、一斉教授用の印刷媒体教材(具体的には掛け図)とそのための指導用マニュアルを、英語版と現地語版で開発・作成している。